

特集にあたって

高橋信一

消化器疾患の多くはいわゆる common disease と呼ばれるもので、日常診療で遭遇する機会も多い。そのため消化器疾患の診断・治療に関する知識は日常診療の基本となるであろう。2010年9月、初期研修医、消化器内科医を目指す医師を対象に「消化器治療薬の選び方・使い方」(羊土社)を上梓し好評を得たが、今回、「日常診療」をキーワードに、消化器疾患の治療薬を解りやすくまとめるべく本特集が企画された。

まず第1章『症状編』では、腹痛や恶心・嘔吐、胸やけ、下痢など日常診療でよく診られる症状を7つ挙げ、それぞれその治療薬についてまとめていただいた。患者さんの症状に合わせた薬の使い方を解説するもので、特に確定診断がつく前の治療についてはあまり成書に記載されることなく、興味深い内容となっている。さらに「絶対に使ってはいけない薬」、「見落としてはいけないこと」、「その他のアドバイス」と細かく解説していただいた。

続いて第2章『疾患編』では各疾患別にその薬物治療につき示していただいた。消化管で9疾患、肝臓で7疾患、胆・膵で4疾患を挙げ、それぞれ臨床経験豊富なご専門の先生方に、治療の基本から始まり、薬の選び方、使い方について理解しやすくご解説いただいた。すなわち、1) 第1選択薬、2) 効果が出なかった場合のつぎの選択、3) 副作用がでた場合の対処法、4) 合併症のある場合、5) 重症者の処方、など具体的に示していただいた。

最後に「臨床力を鍛える Case Study」を加えた。臨床的に診療判断が難しい症例を提示し、その診断・治療に関し、佐賀大学医学部内科、大阪医科大学第二内科学教室の2施設からの意見をいただき、最後に実際に行った治療を示すというものである。疾患の診療手順の考え方を理解するもので、どうかご期待いただきたい。

本書の特徴は以下のとおりである。

- ① 多色刷りのきれいな紙面で読みやすい。
- ② 図表が多く内容の理解を助ける。
- ③ 具体的な処方例を示し、重要な点を Point として簡潔にまとめている。

- ④ 各文献についてもその概要を示す。
- ⑤ 適宜、「コツ－手技や読影のコツ」、「pitfall－よくある失敗の注意点」、「Memo－用語解説や少し専門的な知識」などを示す。

先に述べたとおり消化器疾患の多くはcommon diseaseであり、研修医や若手医師がまず最初に経験する機会が多い。正確な診断のもと的確な治療により症状の改善が得られる喜びは、消化器内科医の醍醐味といえよう。その基本の1つが薬物療法の知識なのである。

本書が消化器疾患の日常診療において有用な成書となることと期待している。お忙しい中、ご執筆いただいた各執筆者の先生方に深くお礼申し上げます。

Profile **高橋信一** (Shin'ichi Takahashi)

杏林大学医学部 教授（第三内科）
杏林大学医学部付属病院 副院長

1976年杏林大学医学部卒業、'92年杏林大学医学部第三内科助教授、'93～95年Harvard大学に留学、'99年杏林大学医学部第三内科教授 現在に至る
研究テーマ：消化器病学全般、特に胃潰瘍の診断・治療、ヘリコバクター感染症
主な学会役職：日本消化器病学会（財団評議員）、日本消化器内視鏡学会（社団評議員）、日本消化管学会（理事）、日本ヘリコバクター学会（理事）、American Gastroenterological Association (AGAF)、American College of Gastroenterology (FACG)

